

4-2 仏教学科〔平成27(2015)年度入学〕

1 卒業基準単位

仏教学科生〔平成27(2015)年度入学〕が卒業資格を得るために必要な最少修得単位数は次のとおりである。

仏教学科の卒業基準単位

教養的 科目	一般教育科目	20単位以上	
	発展教養科目		
	外国語科目	4単位以上	
専門 科目	必修科目	24単位	必修・選択必修1群・ 選択必修2群・選択・ 関連領域をあわせて 84単位以上
	選択必修科目1群	24単位以上	
	選択必修科目2群	16単位以上	
	選択科目		
	関連領域科目		
合計		124単位以上	

教養的科目は、一般教育科目、発展教養科目あわせて20単位以上、外国語科目4単位以上、専門科目は、卒業論文8単位を含め、必修科目（24単位）、選択必修科目1群（24単位以上）、選択必修科目2群（16単位以上）、選択科目、関連領域科目あわせて84単位以上、合計124単位以上である。

例えば、一般教育科目24単位、外国語科目4単位、専門科目の必修科目24単位（卒論含む）、選択必修科目44単位、選択科目28単位を修得すれば、合計124単位となり卒業要件を満たす。

一般教育科目の「学修の基礎Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位は**必修**である。

外国語科目の「英語1・2・3・4」の4科目4単位は**必修**である。

専門科目の「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

2 受講時間帯

仏教学科生の受講時間帯は、品川キャンパス1～7時限目（9時～21時10分）である。なお、科目によっては時間帯が異なったり、特殊な形態で開講される場合があるので、ガイダンス等に必ず出席し、その指示に留意することが必要である。

3 セメスター制

教養的科目・専門科目（一部科目を除く）は、多様な知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、半期開講であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。第2期（後期）開講の科目についても、履修登録は原則として各年度初めの所定の期間に行わなければならない。

なお、年間制限単位数の中で、第2期科目を所定の第2期追加履修登録期間中に追加履修登録することも可能であるが、登録をし忘れる学生が散見されるので、十分に注意すること。

また、一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り、履修中止を申し出ることができる。ただし、「3. 履修に関する全般的注意事項」を参照し、十分に注意のうえ、中止を行わなければならない。

4 選択必修科目

選択必修科目は1群と2群に分かれる。各コースの必要単位数は次表のとおりである。

コース	選択必修1群	選択必修2群
仏教思想歴史専攻コース	20科目40単位中	18科目36単位中 8科目16単位以上
仏教文化専攻コース	12科目24単位以上	19科目40単位中 8科目16単位以上

5 年間制限単位数

各学年において1年間で履修することのできる単位数の上限は次表のとおりである。ただし、一部の指定科目並びに第4年次の「卒業論文」8単位は、この年間制限単位数には含まれない。(資格科目も、この年間制限単位数には含まれない。)

学年	卒業単位
1年	46
2年	42
3年	42
4年	42

6 進級条件制度

第2年次から第3年次へ進級するには、次表の①、②の2つの条件を満たしていなければならない。

進級条件

①修得単位数	44単位以上（自由科目・資格科目と、海外語学留学、海外語学研修は含まない）
②進級必要科目	学修の基礎Ⅰ、学修の基礎Ⅱ 英語1、英語2、英語3、英語4 仏教学基礎演習1、仏教学基礎演習2 上記の8科目より6科目以上（※いずれも第1年次の必修科目である）

7 相互履修科目（学部間相互履修制度に基づく授業）

仏教学部においては、平成27（2015）年度入学生より学部間相互履修制度に基づく授業を設けている。仏教学科生は、相互履修科目として指定されている他学部開設の専門科目を履修し、その一部を仏教学科の専門科目（関連領域科目）として卒業基準単位数に含めることができる。

履修上の注意

- ① 履修にあたっては、仏教学部必修科目を優先し、履修計画をたてること。
- ② 相互履修科目は、開講学部が受け入れ人数を設定しており、事前登録科目となる。履修を希望する場合は、事前登録科目申請期間に所定の登録を行い、事前登録（含、抽選）結果を確認すること。
- ③ 本年度の開講授業は、本書の「学部間相互履修制度に基づく開講科目」（仏教思想歴史専攻コースは22頁、仏教文化専攻コースは26頁）を確認すること。
- ④ 講義内容は、WEBシラバスにて確認すること。